

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第6学年			学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	+5.0	+3.0	+8.0	令和8年度の目標	+1.0	+3.0	+1.0	+3.0	+1.0	+2.0	+5.0	+3.0
令和7年度の結果	+3.0	+8.0	+11.0	令和7年度の結果	-0.6	+2.8	+0.3	+1.1	+4.6	+2.8	+4.6	+14.6
令和6年度の結果	-5.0	-7.0	-12.0	令和6年度の結果	-6.1	-2.5	+1.0	-1.0	+1.2	+8.7	-1.0	+5.9
令和5年度の結果	+1.0	-3.0	-2.0	令和5年度の結果								

年度 内容	令和7年度	令和8年度	
	成果と課題	目標	目標達成に向けた取組
学校全体	日頃の授業改善の取り組みや南二道場、放課後補習の充実により、基礎学力はほぼ安定して高い。全学年を通して、考えを書いたり表現したりする力が弱い。論理的な文章を読んだり書いたりする活動を通して論理的思考力を高める。論理的な文章を書けるように、相手や目的に応じて、文章全体の組み立てや段落と段落との関係を考えながら書くように指導する。また、モデルを示して書く内容を整理してから書くようにする、書きたい中心文を一文で書くようにする。	どの学年も、全国平均を上回っている。学年によって、児童の特性や資質、能力には差があるので、仕方がないことではあるが、全校で基礎学力を高めること、考えを表現する力を高めることを共通理解し、すべての学年で、国語も算数も+1から+3を目指す。	①ノート指導の充実を図る。 国語でも算数でも、ノートに結果や答えだけでなく、言葉や式、図などを使って自分の考えを表せるようにする。また、学習のまとめや学習感想などを書かせることで、自分の考えを言葉で表現することを習慣化させる。 ②家庭へも連携を呼びかけ、家庭学習の習慣化に取り組みたい。今後も、基本的な学習習慣や学習方法を身に付けさせるとともに、各教科や総合的な学習の時間などにおいて、児童自身が問題の解決方法を考える活動の充実を図り、自ら考えることを習慣化させる。
第1学年	算数科において、「たしざん」や「ひきざん」などの基本的な計算はよくできている。「なんじなぶん」や「くらべかた」などの絵や表から読み取る力が不十分である。国語科において、「漢字」の書き取りはよくできている。「よむこと」や自分の言葉で考えや意見を説明する力が不十分である。	文を自分で読み取ることができるようにする。自分の考えや意見を言語化できるようにする。	ノートに自分の意見や考えを書く取り組みを増やし、説明する機会を多く取り入れ、習慣化させる。文を読む際に、読む所を指や鉛筆で示させながら読む習慣をつけさせる。算数の文章題や絵、表を読み取る際に正しいメモや書き込みをさせることで見落としや見間違いがなくなるようにする。
第2学年	算数科において、「かけ算」は、九九検定表を用いたり、百マス計算をコツコツと継続することにより、定着できている児童が多い。一方で、問題文をよく読んで回答する力や時計を使った問題の定着は不十分である。国語科においても正しく文章を読み取ることが課題である。	文を自分で読み取ることができるようにする。自分の考えや意見を言語化できるようにする。	ノートに自分の意見や考えを書く取り組みを増やし、説明する機会を多く取り入れ、習慣化させる。文を読む際に、読む所を指や鉛筆で示させながら読む習慣をつけさせる。算数の文章題や絵、表を読み取る際に正しいメモや書き込みをさせることで見落としや見間違いがなくなるようにする。
第3学年	国語科において、漢字の読みは、全国平均を上回っていた。文の空欄に入る言葉を書く問題が、不十分である。算数科において、直角三角形を書く問題は、全国平均を上回っていた。自分の考えを言葉や式を使って説明することが不十分である。	問題文をよく読んで記述することができる。時計を確実に読んで理解することができる。	読解力をつけるために、問題をよく読んだり、キーワードに丸を付けたりする。国語科でも丸を付けた本文と問題文のキーワードを線で結ぶ癖をつける。アナログ時計を日常的に多く用いる。
第4学年	国語科において、「言葉・情報・言語文化」と「書くこと」は、全国平均を上回っていた。「漢字の書き」と「情報の扱い方」は全国平均を2〜3ポイント下回っていた。算数科において、「数と計算」は、全国平均を5ポイント上回っていた。しかし、それ以外の領域が0.5〜2ポイント下回っていた。	問題文をよく読んで記述することができる。自分の考えを言葉で説明することができる。	国語では、読解力をつけるために、登場人物の心情を記述したり、段落ごとの内容を短い文でまとめたりする取り組みを増やす。算数では、自分の考えを図や式や言葉を使ってノートに書き、相手に伝える取り組みを増やす。
第5学年	国語科において、「話すこと・聞くこと」と「読むこと」は、全国平均を上回っていた。自分の考えを書くことや、「問い」に正対して答えを書くことが不十分である。算数科において、計算問題は、全国平均と同等であった。自分の考えを言葉や式を使って説明することが不十分である。	国語科において、「話すこと・聞くこと」と「読むこと」の領域で全国平均を上回る。算数科において、「図形」と「測定」と「データの活用」の領域で全国平均を上回る。	国語科において、話を聞きながらメモを取れるようにする。読解力を補うために、学習スキルを身に付けさせる。例えば、「サイドライン」や「キーワードを○で囲む」など、ワークシートを使って練習する。算数科において、「表やグラフの特徴」や「活用」の部分が平均を下回ったため国語で習得した学習スキルを応用できるようにする。「図形」の単元では他の単元よりも復習する時間を1〜2時間程度多めに設定をする。
第6学年	国語科はどの項目も全国平均を上回った。算数科については、全ての項目、間で全国平均の正答率を上回った。また、分数の計算においては平均正答率94.1%と全校区平均大幅に上回った。活用・応用の記述式問題についても、全国平均より10ポイント上回った。基礎基本となる計算問題の定着を徹底して行うことで、活用場面での正答にもつながった。	自分の考えや式を言葉で説明することができる。考え方や式を言語化できるようにする。	既習事項を活かし「前に○○が△△ということを知りました。このことから今度は□□になるのではないかと考えられます。」というように、身に付けた学習事項を根拠にして、未習の学習結果を考えられるようにする。ノートには、計算式だけでなく、言葉や式、図などを使って自分の考えを表せるようにする。学習のまとめを書かせることで、自分の考えを言葉で表すことを習慣化させる。